



No.16

2012年10月 1日発行

# 水辺のひろば



刈っても束ねるのが、…。でも、子供たちはすぐに上手になる



農村の景観形成や環境保全、農業基盤の強化などのためにも、体験活動や交流は不可欠です。当会は今後も地域活動を支援していきます。

春に植えた稲は、今年の異常気象と雨不足の中を耐え、収穫の秋を迎えました。9月30日の稲刈り交流体験事業には、収穫を待ちわびた人たちが集まり、地域の方々への指導の下、なれない手つきで稲を刈り取っていました。竹俣活性プロジェクトは、新発田市立竹俣小学校の閉校に伴う地域コミュニティ喪失を心配し、竹俣小学校区の方々が中心になり組織した地域活性化に伴う活動を始めたためです。農業体験はその活動の一つです。

全国の農業人口が約260万人、その60%以上が65歳以上の高齢者です。近年は、農村地域でも農業を知らない世代が増えています。そんな農業を体験してもらおうと、今年、竹俣活性プロジェクトでは、春の田植え、夏の案山子作り、そして収穫の稲刈りと、米のできるまでを実際に体験する事業を実施しました。この事業には、加治川ネットも共催しています。

## 「稲刈り交流体験」

体験を通して農業を再発見

## 寄稿 殿様街道てくてく旅 ⑩

会津から白河へ(その2)

福良宿の大通りの外れには、地場物産を売っているスーパーがあり、各種キノコ、米、野菜、木の実などが店先に並んでいた。キノコは天然物だそうだが、鮮度が多少気になる。新米が30kgで8,000円とはリーズナブル。

その向いに立派な門構えの広い敷地のお屋敷があったが、どうやら廃屋らしい。塀越しに覗くと大分前から空き家のようで、雑草がはびこっている。少し手入れをすれば良い庭のあるお屋敷になるのにと、旅の身ながらもつたいないと思ってしまった。

前日の到着地の会津まで戻り、9時20分に早速歩き始めた。集落を過ぎると左にカーブし、やがて川を渡ると右にカーブする。この辺りも山間のどかな風景が広がり、目を楽ませてくれる。小さな峠道を越えると道の左に福良の一里塚があり、その先が福良の宿になる。

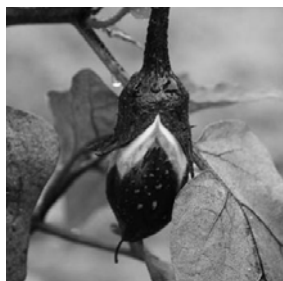
福良の宿で見つけたいくつかの面白いもの。そのひとつが「テラー ワタペー」の看板。会津側から歩いてこの看板を見上げ、通り過ぎて何気なく振り返って見たら「テラー ヒキター」

「えっ!えっ!?!」・・・もう一つは純正茅葺き屋根の滋賀時計店。古式ゆかしい茅葺き屋根と現代的な店内との取り合わせが妙に面白い。歩いて発見することが楽しくて、てくてくの旅はさらに進んでいく。(K.K)

(次号へ続く)

**宝物みくつけた**  
種から種へ、いのちのリレ!  
在来作物久保ナス

在来作物は、種を受け継ぎ栽培されているもので、その地域の風土や食文化と密接につながっています。見栄えや日持ち、「収量」など、どちらかというと流通側の都合で野菜や果物は時代とともに変わってききました。そんな中において「久保ナス」はずっと守られてきた新発田の味です。



ナス漬けなら「久保ナス」

い伝えもあるそうです。ドレッシングでサラダを食べる時代「最近野菜の味がしなくなった」という声を聞くことがあります。 「在来作物」の多くには野菜の味が残っているものが少なくないようです。在来作物と食文化の関係からその土地の食のルーツを垣間見ることができます。

## イベント案内

- 加治川ネット21主催事業  
●小生による環境学習パネル展  
とき：11月10日(土)・11月18日(日)  
午前10時～午後7時(最終日午後5時)  
ところ：新発田市、聖籠町の小学校の環境学習成果パネルの展示  
共催：新発田市教育委員会、聖籠町教育委員会
- 加治川ネット21後援事業  
「よみがえりのレシビ」  
上映会とトークショー  
とき：11月11日(日)  
午後1時30分～4時30分  
ところ：生涯学習センター講堂  
前売券1,000円(当日1,400円)  
チケット発売：喫茶「紫音」(市民文化会館内)、市観光案内所、まちの駅ほか  
※詳細はホームページをご覧ください。

## NPO法人加治川ネット21の紹介

設立	1996年11月、2003年5月法人化
活動目的	21世紀を生きる子どもたちにより環境(自然、伝統、文化)を残し、伝える。
主な活動	水と親しむ水辺の大衆校、生き物調査、小学校環境学習支援、川辺や町並み散策、手前みそ作り、シンボリズム開催
受賞歴	環境大臣表彰、新潟県環境賞、「日本の水をきれいにする会」会長表彰ほか
年会費	法人会員10,000円、個人会員2,000円

## 編集後記

5年前、加治川ネットの文化活動の一つとして、新発田から津川まで新発田の殿様の通った道を歩いてみようとして「てくてく旅」を企画しました。吉田松陰も十返舎一九も通った諏訪峠越え、車では通れないルートです。途中には、一里塚や石畳の跡が残っており、昔の暮らしぶりを聞いたり、木苺や桑の実を頬張りながらの旅はとても楽しいものでした。

以来、有志により旅が続けられ、野沢会津若松、白河、大原、宇都宮、小山、古河、草加と複数の県を通り、参勤交代の道(約3百数十キロ)を歩き継いで、今秋、10回目にして江戸の新発田藩上屋敷跡(新橋駅付近)に到着しました。友と歩く時速4キロの旅は、私に継続することの大切さと、先人の偉大さを実感させるものとなりました。環境を守る活動も継続は力なりです。できることをこつこつと、これが最も大切なのではないでしょうか。

## 川っぴおもしろいね 12回目を迎えた水辺の大高校

8月5日、毎年の恒例となっている川と親しむ「水辺の大高校」を開催しました。水辺の大高校は、当会の主要事業の一つで、今年が12回目となります。

以前は加治川天然プールを会場にして実施していましたが、年々、川遊びを楽しむ家族連れやグループなどが増えてきたため、昨年から、加治川東柳橋（新発田市内宮古木）上流の河原です。

今年は親子30組が参加しました。水遊びを安全に行うために、まずはライフジャケットを着せます。川で泳ぐことが初体験の子供も多く参加していたため、一人ひとりにしっかりと指導し、ジャケットのゆるみがないように装着しました。

加治川の水温は20℃前後で最初は少々冷たく感じましたが、次第に体も慣れ、いよいよカッパの川流れです。初



流れに乗ってスーイスイ

めは一人ずつ仰向けになり、プカプカと川の流れに体を任せ浮いてみます。気持ちのよさを体感し、だんだん調子が出てくると、友達と手を繋いで流れたり、浮き方を工夫したりして楽しんでいました。

川を怖がりなかなか浮けない子もいましたが、そういう子は別メニュー。水の中がねや箱めがねで川底をのぞいて見てみます。水がきれいなせいか、魚の泳ぐ様子もよく見えました。

次は、恒例の竹筒を利用した水鉄砲づくりです。細い竹に布を巻いて押し棒を作りますが、これがなかなか難しく、何度も巻き直す子もいました。押し棒ができたならそれに合う竹筒を探し、実際に水を入れみんな的に向かって放水です。簡単には撃ち落とされないように的をしっかりと留めましたが、あつげなく、支柱ごと水圧で倒されてしまいました。

昨年のこの事業は、福島県からの避難者支援事業を兼ねていましたが、今年には特に避難者家族への呼びかけはしませんでした。しかし、「昨年楽しかったので」と、昨年参加した家族の1組が友人家族と一緒に今年も参加していました。川遊びのファンがまた増えたことは、本当にうれしいことです。

### 生き物がたくさんいたよ！ 五十公野小学校で総合学習

小学校では総合学習の時間が設けられていますが、その時間を環境学習に活用しています。6月2日、第8回目となる「ふるさと観察会」が行われ、五十公野小学校の児童が、新発田市久保地区内で実施しました。当日は晴天にも恵まれ、参加者も多く、例年になく盛況ぶりでした。

### 見つけた！イバラトミヨ ふるさと観察会

6月2日、第8回目となる「ふるさと生き物観察会」を、イバラトミヨの生息地、新発田市久保地区内で実施しました。当日は晴天にも恵まれ、参加者も多く、例年になく盛況ぶりでした。この観察会は、新発田市六日町や久保地区で絶滅危惧種のイバラトミヨが発見されたことから、生息場所の環境や生き物の調査を兼ねて実施しているものです。説明を受けた後、久保集落の清水川（生き物保全水路）で生き物採取。川の

## 一人と自然 地球温暖化による 動植物の北上

今年も、昨年同様に暑い夏でした。気温は連日30℃を超え、夜に下がっても気温は下がらず熱帯夜。晴天続きのせいで、新発田の水がめである加治川や内の倉のダムも、空っぽになってしまい、毎年のように雨の降る新発田まつりも、久しぶりに雨のない祭りとなりました。

一方、九州地方をはじめとした西日本では豪雨に見舞われ、各地に大きな被害をもたらしました。これらは、すべて地球温暖化が主な原因と考えられています。

地球温暖化の影響では、動植物の北上も問題となっています。かつては北海道では採れない作物と言われた米が、北海道でも多く栽培されるようになり、今では生産量日本一となっています。コシヒカリの最遠

充てている学校があります。当会では環境学習を支援するため、生き物調査に講師を派遣しています。

環境学習をしている学校の一つ、五十公野小学校には5月と6月に計3回、4年生の授業を担当しました。

初回は「絶滅危惧種からみた生態系について」の授業で、食物連鎖を通じた生き物の輪の繋がりを、絶滅危惧の問題などを事例を交えて解説していきます。子供たちからは外来生物の質問が多くあり、どのくらい生態に影響を

地も、もう少したつと新潟ではなく、東北地方に移ると言われています。秋の味覚のりんごも、南限がどんどん北に秋ってきています。

昔は雪に阻まれ、冬の移動が困難だった動物が北上し、イノシシの農作物被害が各地で問題となっています。新潟県でもほとんどみることになったイノシシが、近年、あちこちで目撃されるようになっています。

今の気温上昇のテンポの速さでは、動物は移動できても植物は移動できないため、食物連鎖の関係が崩れ、生態系にも大きな影響が出ると予想されています。温暖化は地球規模の問題です。個人ができる事は少ないかもしれませんが、何もしくなくてよいということではありません。各自ができる範囲でエコに努めることも大切です。たとえ一人一人の努力は小さくとも、ちりも積もれば山となるのですから……



学習は実際に触れてみて

環境が変化しているため、イバラトミヨの減少も心配されていますが、お腹の大きなメスや稚魚もたくさん確認でき、ホッとしました。

約30分の生き物採取でしたが、ドジョウ、ホトケドジョウ（絶滅危惧Ⅱ



今日は何が捕まえられるかな（向中条地区）

類）、トノサマガエル（絶滅危惧Ⅱ類）、モノアラガイ（準絶滅危惧）、トンボのヤゴなども観察でき、たくさん生き物に子どもたちも大喜びでした。

8月5日には、当会が講師となり、農地水・向中条地域保全会の恒例の生き物観察会が行われました。捕まえた生き物の種類は例年よりも少し少なかったですが、それでも子どもたちや地域の人たちが網を入れ、メダカ、トンボのヤゴ、ミスカマキリやタイコウチなどを捕まえることができました。また、嬉しいことに、今年ナマズの稚魚を捕まえました。ナマズは、その餌になるたくさんの生き物がいる豊かな水辺環境が保たれていることを教えてくれました。当会では、子どもたちが安全に生き物たちと触れ合えるような環境を、地域のみならず一緒に、これからも守り続けていきたいと思います。

## くらしの方言 その9

### 会議で「キメル」

会議から戻った課長は、なにやら渋い顔。

係長「会議は終了ですか？  
早かったですね。」

課長「部長が途中でキメてしまてさあ、大変なんだよ。」

係長「鶴の一声ですね。早く結論が出てよかったですか。」

課長「ただし、部長が「キメ」て話が止まってしまうんだぞ!!」

※キメル  
意見の食い違いや対立で、相手が時に怒って拗ねてしまう様子。こうなると扱いにくくなった人になってしまいます。

## 環境豆知識 Vol.14 竜巻

今年5月、北関東地方で竜巻による大きな被害が発生しました。

初夏のころには暖かい空気と冷たい空気がぶつかり、積乱雲が発達しやすくなります。直径30km程に巨大化した積乱雲をスーパーセルといいます。スーパーセルの中では上昇気流と下降気流の領域があって、メソサイクロンと呼ばれる小規模な低気圧が発生し、渦を巻いて回転し始めます。

回転する下降気流に向かって方向の異なる風が地上付近でぶつくと、ガストフロントと呼ばれる寒冷前線に類似した気流の衝突面(突風前線)が形成されるようになります。ここでは速度の異なる上昇気流が渦を作りながら発生と消滅を繰り返します。その中でも強い上昇気流が、竜巻に成長するのではないかと考えられています。

竜巻に成長するかどうかはメソサイクロンとガストフロントの出来る距離に関するものとみられています。竜巻の発生メカニズムにはまだまだ多くの謎があり、今も研究が続けられています。

参考出典 NHKサイエンスZERO/8月26日放送